

「シカタガナイカラ、コノコヒツジハ
オレガソダテテヤラウト
ヒトリゴトヲイヒナガラヤツテユクウチ
トツプリヒガクレマシタ。」



新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

あらすじと解説

腹を空かした盗人が牧場を通りかかると、たくさんの羊が遊んでいた。盗人は一匹の子羊を連れ去り、殺して食べようと石を振り上げる。ところが、何も知らずにこちらを見ている子羊がかわいそうになり殺せない。村でパンと交換しようとするが、それもかわいそうできない。「仕方がないから自分が育てよう」と思っていると、母さん羊を恋しくなった子羊が盗人に

乳をねだる。困った盗人は、子羊を牧場に返そうと、もと来た道に戻っていく。南吉童話には、しばしば「らしくない人」が登場する。酒を飲み自己中心的な坊さん、臆病な侍。心優しい盗人もその一人。型にはまらないからこそ、人物の個性が表れ、意外なドラマが生まれるのだ。

▶▶ 新美南吉記念館学芸員 遠山光嗣

絵

kero*chun

イラストレーターユニット 繊細な表情を描くkeroと、レトロ可愛い作風のchunからなる2人組。デザインを共同で手掛けたり、個々の作品をイベントや展示会等で発表しています。愛知県在住。keroxchun.michikusa.jp

●絵について 「日が暮れるまで何度も呟いていたのでしょうか。コヒツジを抱き、丸まった背中に隠れたヌスビトの顔を思うと、ちよっぴり切なくもあたたかい気持ちになりました。」